

意見交換(要旨)



最近のJR何かおかしくありませんか？

日本の鉄道事業の運営体制の在り方

本質的な国会議論をつくり出す！

JTSU 議員懇談会会員  
国土交通委員

衆議院議員 福島 伸享 氏

皆さんこんにちは、茨城一区選出の衆議院議員の福島伸享でございます。かつて私が国会で実名を挙げて、駅から時計をなくしていたことを自慢していた当時の経営企画部長が、今度は東北本部長になり、同じように傲慢な意見をやっていると感じているのが感想です。

皆さん方からも「そんなんだよ、最近のJRはなんかおかしいよな」という話を多くいただきました。それから2〜3年の間に様々な事故やトラブルが立て続けに起きました。東北新幹線で切れた架線に付いて感電、大船駅で電化柱が倒壊しぶつかつた、川越線であわや正面衝突など様々なことが起きています。これは「破れ窓の理論」と言いますが、1枚の窓が破れていたら、実は様々なおかしなことが街に蔓延しているということです。

私は、今年3月13日の国土交通委員会で、もしかしらJRは経営体質として安全性に問題があるのではないかと質問をし、鉄道事業法に基づく特別監査を実施すべきではないかと提案を斎藤国土交通大臣にしました。そして、案の定、今回の東北新幹線の列車分離事故が起きました。これは、私たちが前から考えていた話です。走行中に列車が分離してしまうなんてことはありえない話で、本当に大事故にならないで良かったなと思っております。しかし、あつてはならないけれども、今このまま続けば、かつてのJR西日本の宝塚線(福知山線)のような事故が起る前夜になるかもしれないというのが、今のJR東日本の状況だと考えています。今回のワンマン

4年ぶりに国会に戻り、2年前の5月には「最近のJR、何かおかしくないか」と、今日お配りいただいたチラシと同じ質問をいたしました。例えば「みどりの窓口」の問題も、その頃から混雑が始まっていたり、新しく作る駅舎にトイレを置かなかつたりと、様々な面で利用者を無視したことが行われているのはおかしいのではないかと質問しました。衆議院では、これらの問題を取り上げる国会議員はあまりいなか

運転の問題もそうですが、トイレのない駅も、すべての問題がやはり経営体質につながっていると思います。車輪と車軸の取り付けの件で、今日、国土交通省は特別保安監査を行っています。国会に戻り、国土交通委員会で質問する機会がありましたら「技術的側面だけでなく、会社の経営体質そのものに對する監査を行わなければならない」と引き続き追及して参ります。

とここで、今回の事故をインターネットで検索してみると、検索サイトにJRの広告が出てきます。何の広告かと思つたらJR東日本の金融サービスについてです。金融サービスを受ければJR3割引と書いてあります。つまり、これが今のJRを象徴しているのです。鉄道の運賃は割引して、そこで稼ぐのではなく、金融で稼ぐという姿勢です。そして、事故のことを検索すると、広告として出てくる。これこそJRの今の会社の在り様です。本質的



「株主資本主義」が安全第一を脅かしている

経営陣の意識を糾すために、組合、利用者、議員で連帯を！

れいわ新選組の潜水艦と言われてます、千葉一区から来ましたたがや亮と申します。どうぞよろしくお願ひします。私も福島さんと同じく国土交通委員

に所属しており、トイレもない、快速もなく、みどりの窓口もなく、私の出身である千葉のJR永田駅のトイレがなくなることを取り上げてきました。幸い、すぐにトイレが復活するという話になりました。京葉線の快速も散々国土交通大臣を問い詰めて自治体とJRと協力してくれという話

などを見直さなければなりませんし、私たち政治家の役割としては、本場に国鉄の分限民営化は、これで良かったのかをもう一度、問い質さなければなりません。日本の鉄道事業の運営体制そのものについての本質的な議論をやることを通じて、ワンマン運転の問題をはじめとする様々なJR東日本の問題を解決するために、これからも国会で議論していきますので、ぜひ皆さんからの現場の声を届けていただき、またメディアの皆さん方には、想像以上にこのJR東日本というのには、やばいぞ、というのを見ていただいた方がよいと思います。現場の皆さんの声を聞くとおおよそ真つ当な公益事業の会社ではありません。それくらいこの会社についていますので、是非、この事態を報道し、注目していただくことが大事だと思います。どうもありがとうございます。

をしてみました。その結果、通勤快速とまではいかなかったものの、今年の9月から朝2本、以前の快速に近い便ができるということで、少し地元ではほっとしています。しかし、これが要するに始まりなのかなということも、まだまだ地域の首長さんたちも議員たちも警戒をしているところなんです。やはり何故こういうことになっているのかという「株主資本主義」です。皆さんも聞いたことがあると思います

が、すべてが株主のために」というのが多分、今どの業界でも強いのではな

いでしょうか。その中で安全第一という言葉が昔からあります。私も経営者36年やっていますが、安全第一は本場に一番大事なことです。今はその言葉だけになってしまつて、実態がなくなると、株主をどうやったら儲けさせるか、株主配当をどうやったら増やせるか、にばかり目がいき、日本全体では1997年から株主配当額が8倍になりました。異常な割合で増えています。それが今の企業の方、実態よりも金融、先程福島先生も言つていたように、金融に特化したことが株主資本主義の極みだと思つています。これを私たち政治家は少し規制をかけ、改革しなければ労働者の皆さんも安全も守られないと私は確信しています。

聞こえの良いフレーズに騙されず、

安全第一のJR東日本にするため、奮闘していく！



JTSU 議員懇談会会員  
外務委員会/法務委員会  
衆議院議員 鈴木 庸介 氏

お疲れさまです。衆議院議員の鈴木ようすけです。今回のワンマン運転の話があつたときに、本場にもの言い換えて何もかもすべて進めていつてしまつてしまつて。例えば、人員削減を効率化とか、何とかアツプとか、失われた30年を未来への助走とか、本場にこういう表現が上手だなと改めて思います。福島さんからもありました。本場に1人で電車を運転しているときに事故が起きたら、また車内で痴漢などのトラブルが発生し

たとしても不安なことばかりです。個人的には新宿駅のホームにホームドアがないことをはじめ、本場にJR東日本には言いたいことがたくさんあります。しかし、残念ながら国土交通委員会は人気委員会ではなかなか入ることができないので、今、法務委員会から側面射撃ができればと思つてます。引き続き皆さんの連帯を表明させて頂きたいと思つています。今日は本当にありがとうございます。